



第155号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長 小林謙三
編集人 小会報編集委員 長三夫
印刷所 黒岩新聞社 須坂

青年教師に託す

上高井教育会長 小林 謙三

上高井教育会は、今年七十
三名の新会員を迎えた。内二
十名は晴れて難関の長野県教
員採用試験に見事合格した新
進気鋭の新規採用教員の諸君
である。夢にまで見たであろ
う念願の教職に就けたことに
心からお祝い申し上げたい。
失敗を恐れず大いなるがんば
りを期待したい。

私たちの上高井教育会の誕
生は明治十八年二月十六日だ
という。数えて今年百六十年
目という、大変長い歴史をも
った教育会なのである。この
長い営みの中でも、今年ほど
若い先生方の多いのは珍しい
のではないだろうか。手元の
統計では、校長や教頭、事務
養教などの先生方を除外した
先生方の中に占める、いわゆ
る青年教師といわれる二十代、
三十代の先生方の割合は、五
年前の平成元年には62%程度

だったものが、年々増加傾向
をたどり、今年はずいぶん74%
にも達した。またその間の女
性教師の増加率も著しく、平
成元年の35%弱が本年は44%
を越している(小学校では約
57%)。

このような傾向は、ひとり
わが上高井教育会に限らず、
教育界全般のもので、もうし
ばらくはこのままの方向で推
移するものと思われる。それ
だけに今まで以上に経験豊か
な年配者の先生方の先導的教
育実践と、後継者育成への積
極的意欲的なかわりが増して
要請される。

上高井は研究会や会合が多
くていやだ、小さい郡なので
すぐ何かの係や委員の役が回
って来て大変だ、何となく自
由がなくて窮屈だ。といった
不平不満の声のあることを承
知している。それが事実であ
り、そしてそれが子どもや教
師のためにならないもの、即
ち教育そのものを阻害するも
のであれば改めなければなら
ない。しかし、そう簡単に言
い切れるものかどうかは難し
い。例えば郡外の方々から、
若い頃上高井で過ごさせても
らい、そこで体験させられた
ことが今になって役立ってい

るといった感謝の声も少なく
ない。まんざらのお世辞では
なさそうな気がする。

一人前の教師になるには、
いつかはそれなりの苦勞は必
要なのだ。小郡故の郡的な委
員や係の役はご苦勞であるが、
むしろ与えられたチャンスと
受けとめていただきたい。

一人前とはあえて重い方の
荷物を自ら選んで背負う人間
だ」という。その上で改善す
べき点については、自ら声を
上げ行動を起こしてほしい。

今、世間から学校や教師に
対しての批判や非難の声は大
きい。的外れのものもあるが、
学校や教師に期待するがため
の悲痛な叫びとして受け止め
なければならぬものも多い。
学校に向けられた批判非難が
もし正当なものであれば、そ
の責任の大半はわれわれ先輩
教師のものであろう。その償
いを若い先生方において
は申し訳ないとは思いますが、
と言って他に託す者はいない
のである。

国家社会のリーダーたるべ
き政官界や財界人への国民の
不満は頂点に達しようとして
いる。まさに世は混沌の状況
下にある。政治家の倫理は地
に墮ちたというが、その政治
家を墮出した国民の責任も問
われなければならない。その
国民の正に公民的資質の基礎
を養う任務を負っているのが
われわれ義務教育の教師なの
である。実に偉大にしてやり
がいのある仕事ではないか。

上高井教育会だより

- 4. 1 選挙公示(役員選挙)
- 3. 第1回代議員会。第2回選挙管理委員会。
- 5. 理事長選挙。第3回選挙管理委員会。
- 8. 第2回代議員会。第4回選挙管理委員会。
- 9. 副理事長・理事・信教常任委員・信教代議員選挙。
- 12. 第5回選挙管理委員会。
- 13. 教育会会計監査会。
- 20. 第1回常任委員会。研究委員会及び同好会世話係会
 研究総委員会。於須坂小学校。
 講演会 中心講師 谷川彰英先生(筑波大学助
 教授)

- 22. 演題 「関心・意欲を育てる授業づくり」
 第1回研究委員会世話係会・委員長会。
- 26. 第3回代議員会。新任者会員歓迎会。於教育会館。
 新任者会員20名。第6回選挙管理委員会。
 監事選挙
- 27. 第2回常任委員会。
- 28. 同好会発足会。於須坂小学校。
- 5. 第1回同好会世話係・会長会。於教育会館。
 教育会定期総会・講演会。於須坂市公民館。
 ○平成4年度会務報告並びに決算、平成5年度事業
 計画並びに予算の承認。
 講演会 講師 大石 勝男先生(帝京大学文学部
 教授)
- 5. 「今、問われる教師の課題」
 ○会員意見発表
 「信州教育に魅せられて」 児玉 明代教諭(仁礼小)

- 6. 演題 第107回信教定期総集會。於戸倉上山田中学校。
 本会参加者61名
- 7. 第3回常任委員会。
- 11. 第4回代議員会。
- 5. 上高井教育会報第155号発行。

基礎基本の徹底と個性の伸長

研究委員長 富澤 慶吉

新教育課程の重要な柱の一つに、基礎的基本の内容の徹底を図り、個性を伸ばす教育が重視されている。これは今年度の郡研の内容の一つでもあるので、このことに係わる研究課題について私見を述べたい。

子どもが意欲的に考え、自由に発表したり、表現したりして思考を深め、学習の成就感を味わう過程においては、必ず「わかった、できた」という姿が見られる。つまり、基礎的基本の内容が身につく学習が展開されているはずである。

ところが、この基礎的基本の内容の徹底を図っていいこうとするとき、一斉指導や教師主導型の授業に陥ってしまっ

てはならないという心配のためか、一人ひとり自由に取組ませようとすると場面が多い。そこでどんな力が身についたのかを問われ、授業者が戸惑うことがよく見られる。

「自由に考え、発表したが、基礎的な力が身についたのだろうか」というように、基礎的基本の内容の徹底と個性的な考え方を伸ばすことが矛盾するように受けとめて、話し合われている場面にもよく出会う。

両者は対立概念ではなく、基礎的基本の内容の徹底こそ、
がわかり、図形に対する多様な見方考え方ができる。
(三)資料の読み取り方を身につけることによって、事象間の関係がわかり、自分なりの予想が立たる。
(四)音符のきまりや形式を知り、身につけることによって、自ら工夫して豊かな表現ができる。
(五)線描の心づかいを身につけることによって、思いきってかく自信がもて、自分らしい表現ができる。
(六)友だちと修正し合う学習の形が身につくことによって、学習課題を持つことができ、自ら運動技能を高める。
以上のように基礎的基本の内容が一人ひとりが伸びていく姿としてとらえたいものだ。(墨坂中)

意欲を育て、わかる授業の実践を

研究副委員長 北島 秀樹

本年度の研究委員会は昨年度新たにした全体テーマ「子どもにとって、わかり、魅力のある授業のあり方」を継続し、講師も谷川彰英先生に引き続きご指導いただき、子どもの力の向上を目指して出発した。昨年度は、第一回研究日において、墨坂中一年の社会科、単元「奈良の都と東大寺」と第二回研究日、小山小一年の生活科、単元「ぼくたち、わたしたちの臥竜山」をご指導いただいた。若い先生の意欲的な授業を通して、四つの授

平成5年度 県外視察者

学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施予定
栗谷丘小	竹内 竜一	新CSにおける社会科の指導法について	関東	6月
"	宮尾 和恵	体育に関わる授業視察	東海	未定
"	市川 典子	指導の向上(全日本小学校音楽研究大会)	関東	未定
高山小	武居 和紀	描写及びデザイン指導のあり方	未定	10月
"	原 真由美	重度の障害を持つ子の指導のあり方	関東	10月
須坂小	依田 正良	個に応じ個を生かす教育方法の工夫を学ぶ	関東東海	6月中旬
"	宮崎のり子	子供が生き生きと活動する教育を求めて・特活	関東	11月中旬
"	勝見 典子	子供が自ら学ぶ意欲的な学習をめざして・国語	関東	9月初旬
森上小	中村 恵子	音楽教育-発声指導-	東京方面	6月
"	依田 周二	チームティーチングにおける効果的個別指導	関東	6月
豊洲小	斎藤 章子	自分の考えをもちつつ豊かに読み深める・国語	東京	6月か2月
"	吉池 裕美	個に応じた学習を深める生活科活動のあり方	上越	10月か2月
日野小	小林 永子	低学年生が生き生きと学ぶ姿を求め指導に役立てたい。(生活科や低学年を参観)	関東	6~7月
井上小	島田 一生	同和教育研修	千葉松戸	5月4・5日
"	井口 博司	理科教育研修	東京	7月
旭ヶ丘小	山岸 信之	確かな学力をつけるための社会科指導のあり方	関東	4~9月
仁礼小	伊賀 雅志	学級経営のあり方	富山県	6月
"	小林 仁子	学級経営・生活科の学習	静岡	6月
"	大室 正子	生活科研究	東京	7月か11月
"	丸山 博子	性教育を中心とする保健指導の実践	検討中	10月
"	柳川 淳子	音楽学習	東京	5月
相森中	伊藤 由紀	英語指導研究	関西	7~9月
"	綿内 剛美	国際交流教育	関西	7月
墨坂中	牛越 雅紀	全日本指導者バンドクリニック参加	三重	5月17・18日
"	田上 達人	東北地方の地域教材の利用について、県外の先進校に学ぶ	秋田大瀨村	夏休み中

わらず、「できた、わかった活動」を大切にしたい。基礎的・基本的な内容の定着伸長への見通しを持った教材研究。③子ども自らの課題を明確にし、解決のために友と支え合い、相拮抗し合う場面の構成。④支援と評価が的確になされる教師の指導等が導き出される。これらの課題追究の方向は四月二十日に行われた研究総委員会での谷川先生のご講演の中に見ることが出来る。

同好会発足にあたって

同好会会長 関野 格正

平成五年度の同好会は十五の同好会で、会員延数二百九十四名の参加によって発足いたしました。今年度は新たに「情報教育」の同好会が加わりました。情報化の社会に対応する「児童・生徒」の育成が要請される今日の課題に相應するものとして有意義なものと考えます。

教育会の運営の中に「同好会を新設したい場合は、五名以上の連名をもって教育会長へ申し出し」ということがあります。新たな出発ですが、充実した活動を願い、次代へ発展させていただくよう期待をしています。

児童・生徒の前に立つ者は、常に学び続ける者のみが教師として立てると言われます。この道を自ら選んだ者として当然であり、責務と思えます。そのため私たちが教育会は、研究委員会と並んで、同好会での研鑽の場を大事に位置づけています。同好会は、同好の士が集まり、お互いの学識や技能・持ち味を気がねなく出し合い、学び合って向上する場です。一人では学び得ないものを多く学べる場であり、

ここまで多くの先輩の方が、すばらしい基礎をつくり、実績を残してきてくださいました。私たちはその上に立って新たな創造と工夫を加え、一

地歴同好会の発足

小林 秀世

地歴同好会は数多くの先輩の先生方が残された実績を受け継ぎながら、地理・歴史・民俗などの分野で幅広い活動をしていきます。

主な事業として次のことが上げられます。

1. 「地域を知る」ということで、自分たちの住んだり勤めたりしている須坂・上高井地方を実際に歩き、見聞きして学ぶ臨地学習。

2. 夏休みを利用して、市川健夫先生を講師に招き、バスを使って県内各地ばかりでなく近県の様子も学んでくる

本校の宝①

「のびゆく」像

栗ガ丘小学校

子どもたちは、この像を「のびゆく像」と呼び、朝に夕に仰いで学校生活を送っている。「伸びゆく」像の制作者は彫刻家の矢崎虎夫先生「のびゆく」の題字は、書家の川村驥山先生である。

昭和三十七年、卒業生の多くの皆さんからの「児童の心にいっまでも残る教育の目標を象徴するものが欲しい」という要望に

3. 県史刊行委員の古川貞雄先生を講師にして、昔の文献の文字に触れてみる近世古文書講習会。

4. 社会科の授業を通じて、仲間の実践に学び合う、信州社研と共催での授業研究会

「先生、参加させてもらってありがとうございます。自分の勤めている学区にこんな所があるなんて知らなかったで、とても参考になりました」

除幕披露式は、二五〇名の来賓、全校児童、全職員が参列して行われた。この模様は信濃毎日新聞やSBCテレビ等で長野県下に報道された。

当時の徳永隆寿校長先生は後に「『のびゆく』ブロンズ像の建設は私の生涯忘れることのできない大仕事でしたが、この出発から完成にいたる過程には何百人何千人という大勢の人たちの善意と清純な協力が秘められております。そして限りない苦業の感情が織

した。また、参加してみたいわ。」と、臨地学習に参加された地歴同好会員でない女の先生から聞かれた嬉しい声です。

本年度は、ダム completion した豊丘地区、小串鉾山、湯倉洞窟のある高山東部地区を計画しています。会員以外の方も気軽に参加して一緒に研修を深めてみては如何でしょうか。

夏季巡検は会員の先生方が楽しみにしているものの一つです。今年はその方面にすか計画を練っているところ

毎年、市川先生の学識豊かで、しかもロマン溢れる説明を通して、素晴らしい研修の

りこまれております。教育精神は永遠なり、芸術の美もまた永遠なり、この形象にはかなりませんと述べられておられる。

この像には、栗ガ丘小学校に学ぶ子ども達に「規律を守



この像には、栗ガ丘小学校に学ぶ子ども達に「規律を守

機会となつていきます。また、行った先々で、古老をはじめとする人情の厚い地域の人々の生の声を聞かれることも楽しみです。

講師の先生に教わりながら何とか読むことができる古文書講習会。苦勞して読む中に何か得るものがあるかと思ひます。

私が先輩の先生に誘われて参加してから十数年になりました。山城や古墳・町並みなどの歴史的分野、現在の工業や農業の様子を知る地理的分野など、直接授業には生かせないまでも大いに見識を広めさせてもらっています。(高甫小)

美を探り、つくづける子どもたちであって欲しいという願いが込められています。

まさに本校の教育のシンボルであり、本校の宝である。(小林 裕)



AETと子どもたち

倉島 芳朗

今から五年程前から、この須高地区にも、AETの先生が常駐するようになったがその影響が英語教育にたいへん大きな足跡を残している。彼等の明るい性格と、物事をきはき言うことに生徒たちも気軽に話しかけ、楽そうに話しをしている。

まずAETの方々日本語を覚えようとして、一年位いると日常生活には、あまり不自由しないくらいに聞いたり話したりできるようになる。養級のK君がたいへん人なつこい人柄であるので、新しく来たAET(Pさん)に、彼から日本語を覚えてもらうように示唆したことがある。K君はPさんに「おはよう」とあいさつすると、Pさんは「Good Morning」と答える。いつのまにかK君はPさんに「Good Morning」と英語であいさつしている。K君は、時々「先生、これは英語で何と言うの?」とたずねてきて、覚えてたの単語をPさんに言いながら一生懸命話している。Pさんも最初何

を言っているのか解らず戸惑っているのだがK君の言ううとして理解して頷きあっている。両者の会話を聞いていると誠に楽しい。K君「Frog」↓Pさん「カエル、フワン」
K君「Frogたくさん岩松院にいます。」
Pさん「ガンショウウイン? (思い出して) Oh, that's temple. フワン...」
K君「蛙合戦、昨日見に行った。」(英語を話している音調で)
Pさん「カエルガッセン? (思い出して) Oh, Frog Battle. フワン...」
このような調子で、外国人に臆することなく話しかけて自然に英語を学習している生徒を見ると誠にほほえましく思う。K君は近頃、私に時々英語を使うようになり、その発音も誠にきれいなのに驚くことがある。「教える事が習うことである」とよく言われるが、この歳になって、改めて感じている。(小布施中)

うれしい子供たちの成長

伊藤 悦子

教職十六年目に突入しました。長い年月が経っているのに、あっという間だったようにも思います。

この四月四日に、初めて担任したクラスのH男の結婚式で祝詞を言う機会がありました。どう考えても、鼻水を出し、おへそを出して、泥だらけになってとびまわっていた姿が思い出せなく、祝詞の内容が考えつかないのです。しかし、花婿となって現われ

「がんばらなくっちゃ」

宮崎美代子

「がんばれ島鳥!」「Tさん、エースをねらっていきな!」「外野、もっとまわして!」大きな声を張り上げ、思い切り応援する私。声をかければうなずく子供。敵チームを当てれば、こっちを見てブイサインを送る子供たち。しかし、こちらのチームのエースが当てられ大ピンチ。急いで作戦タイムをとる。でも、私の近くに子供たちは集まってこない。

「そうだ。あの子たちはもう、私の担任する子供たちではないのだ...」
わかりきっていることなのにせつなさとかやしさが入り交じって胸が熱くなる。何と言って担任の先生はアドバイ

たH男は、身長一八七センチのスラッとした好青年だったのです。もう、言葉もなく、どきどきしっぱなしでした。花嫁さんと並んだ姿に、涙を止めることができませんでした。当時の十三人の子どもたち、今はもう二十五歳。それぞれに、社会に巣立っていることを聞いています。

さて、須坂小学校にお世話になり、二年目を迎えました。私が担任させていただいてい

スしているのかな。気にもな作戦タイムが終わって試合が続けられる。子供のがんばりと必死の応援もむなしく、宝島チームは負けてしまった。二年生の時から三年間、ずっとがんばって練習し続けたエースドッチボール。なきじやくる姿を見るのがつらい。しかし、やっぱり私の所に子供たちはやって来ない。四年間も一緒に生活した。一緒に笑い、一緒に泣き、共に苦しみ、考えながらクラスがまとまってきた。すぐそこに子供たちがいるのに、なぐさめてもやれない。近くにもいくことができない。涙があふれて止まらない。

る菊2組は、昨年四月に全員が、新しく集まってきました。T男は新一年生、S男は小山小より、N子は日滝小より、K男は校内の普通学級より、そして、私は高山小よりと、あちこちから集まり、菊2組で出合いました。教室にそろってみても、何も始まらない、泣いてばかりいる子、気に入らないと体をかきむしる子、多動な子、ぼーっとして何もうやろうとしない子たちでした。しかし、この頃では、一年前とは比べられない程の子供たちの大きな成長が見ら

れるようになりました。自分からすすんで花に水くれをする子、給食が遅いと言って、友だちを迎えに行く子、家からひとりりで歩いてこれるようになり自信のついた子、席に着いて集中できるようになってきた子、ひとりひとりの成長が見られて、うれしい毎日です。

何の力もない私だけれど、子供たちといっしょになり、ゆっくりと歩んでいます。その中で、子供たちは確実に成長しています。それを体で感じた時のうれしさは、何にもかえがたいものです。

(須坂小)

編集後記

お忙しい中、原稿をお寄せいただき、感謝申し上げます。年度第一号です。

本年度は、次のメンバーで誌・会報をお届け致します。
委員長 黒岩 幹夫(森上小)
副委員長 小林 裕(栗方丘小)
委員 花形 敏郎(高山小)
森田 澄子(日滝小)
滝澤 淳(日野小)
田鍋 隆行(旭ヶ丘小)
井口 博司(井上小)
石田 正夫(高山中)
小山 洋子(相森中)
信教 牛山 通高(東中)
(森田・牛山)

「私はもう須坂に来たんだ。あんなにやさしい先生に担任していただいているんだ。ここで私がしゃべってはいけないんだ。」何度も自分に言い聞かせ会場をあとにする。次の朝は何となく気持ちが悪く、スッキリしない。車から降りると、たかさんの子供たちが私をめぐって走って来た。「美代子先生、おはようございます。」「先生、おんぶしてえ。」「先生、トマトの花が咲いたよ。」「黄色なんだよ。」「ちゃんと水くれもしたよ。」と、笑顔で私に話しかけてくれる。

「そうだ!私には、こんなにかわいい子供たちがいるんだ。がんばらなくっちゃ。」そう思い、Tさんをおんぶして一年東組の教室に向かった。

(日滝小)